



奈良県感染症情報

令和2年 第38週(9月14日～9月20日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	1.71	(1.94)	→	→	↗
2	突発性発しん	0.71	(0.50)	↑	↑	↓
3	ヘルパンギーナ	0.62	(0.59)	↑	↗	↑
4	A群溶連菌咽頭炎	0.35	(0.38)	↗	↗	↓
5	水痘	0.26	(0.03)	↑↑	↑↑	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆県内概況◆

定点把握感染症では、ヘルパンギーナ、水痘が少し流行の状態になっています。秋冬にかけて、新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザの同時流行が懸念されています。新型コロナウイルス感染症の第38週の感染者数は、少ない状態でした。季節性インフルエンザについては、10月からワクチンの予防接種が開始されます。ワクチンは季節性インフルエンザの上の方などは定期接種対象となっています。接種を希望される場合は、流行前に確実に接種ができるよう、早めに医療機関に相談するようにしましょう。また、新型コロナウイルスや季節性インフルエンザ等の感染症の予防・拡大防止のため、引き続き手洗いや咳エチケットを行い、3密(密閉、密接、密集)を避けることを心がけましょう。

❖小児科外来情報❖

北部地区(田中小児科医院)

ワクチン接種歴のある児童の水痘が少数だが続いている。喘息の既往のある子で、鼻汁と咳を主訴とする来院が増えている。来院数に大きな変化はない。

中部地区(岡本内科子どもクリニック)

外来数は多くない。短期の発熱の感冒例が主。今夏は手足口病、ヘルパンギーナ等の夏風邪も少なかった。感染性腸炎は少ない。インフルエンザはまだない。他の登感感染症はなかった。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

ヘルパンギーナの流行が続いている。いずれも対症療法で軽快している。下痢中心の胃腸炎が増加。ノロウイルス等の迅速検査は陰性だが、症状が遷延する傾向あり。朝晩の気温低下にあわせ呼吸器感染症が増加しつつある。

出典: 厚生労働省HP



奈良県感染症情報

令和2年 第39週(9月21日～9月27日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- ロタウイルスワクチンを受けましょう～10月1日から定期接種になりました～

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	1.03	(1.71)	↗	↓	↗
2	ヘルパンギーナ	0.44	(0.62)	→	→	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	0.32	(0.35)	→	↗	↓
4	突発性発しん	0.26	(0.71)	↗	↗	↓
5	咽頭結膜熱	0.24	(0.15)	↑	→	↑↑

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆県内概況◆

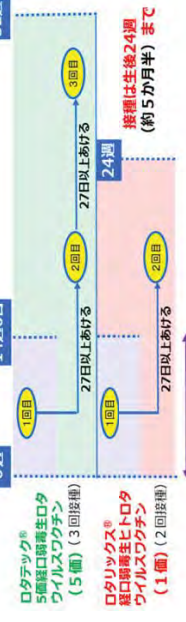
定点把握感染症の報告数は少ない状況です。RSウイルス感染症は報告がほぼありませんが、例年感寒のピークは今の時期で、年末頃まで流行が続きます。RSウイルス感染症は呼吸器系感染症の一つで、初感染の時は、症状が重くなりやすいと言われ、特に乳児早期(生後数週間～生後数ヶ月)には細菌気管支炎、肺炎といった症状を引き起こすことがあるため注意が必要です。高齢者においても重い症状が出る場合があります。また、季節性インフルエンザは例年通りであれば冬に向けて増加することが予想されます。咳エチケットや手洗いの実施で引き続き感染予防に努めましょう。

新型コロナウイルス感染症の第39週の新規感染者は0～2名/日で推移していました。換気が悪く、人が密に集まって過ごすような空間に集団で集まることを避けてください。また、十分な睡眠やバランのとれた栄養摂取心がけ体調管理を行いましょう。

ロタウイルスワクチンを受けましょう～10月1日から定期接種になりました～

令和2年10月1日から、ロタウイルス感染症の予防接種が任意接種から定期接種になりました。ロタウイルス感染症は、ロタウイルスによって引き起こされる高性の胃腸炎で、乳幼児期(0～6歳ごろ)にかりやい病気です。主な症状は、水のような下痢、吐き気、嘔吐(おうと)、発熱、腹痛です。脱水症状がひどくなると入院治療が必要になることがあり、特に初感染で重症化しやすいです。初感染の代わりにワクチンで同様の免疫を得ることができれば、その後ロタウイルスに感染しても軽症で済むと考えられています。ワクチンを接種することにより、ロタウイルス胃腸炎による入院患者を約70～90%で減らすと報告されています。

対象は、2020年8月1日(土)以降に生まれた0歳児です。生後14週6日までに初回の接種を受けましょう。詳しくは、ロタウイルスワクチンに関するQ&A(厚生労働省)をご覧ください。
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/index_00001.html



出典: 厚生労働省HP 初回接種は、生後6週から生後14週6日までに受けてください!

※2回目以降の接種は生後14週6日の前後、いずれでも接種できます。



奈良県感染症情報

和 年 第 40 週 (9 月 28 日 ~ 10 月 4 日)
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	1.97	(1.03) ↑	→	↑	↑↑
2	ヘルパンギーナ	0.56	(0.44) ↑	→	↑	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	0.32	(0.32) →	↑	↓	↓
4	突発性発しん	0.29	(0.26) ↓	↓	↓	↓
5	水痘	0.24	(0.15) ↑	↑	→	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓**減少

◆ 県内概況 ◆

県内において、数週にわたり腸管出血性大腸菌感染症が発生しています。食肉等の汚染食品からの経口感染が主体ですが、養口感染によりヒレカツや刺身にも感染します。食品は十分に洗浄・加熱し、特に、生肉又は加熱不十分な食肉の喫食は控えましょう。また、手洗いの徹底等により二次感染を予防してください。

新型コロナウイルス感染症の第 40 週の県内感染者は、少数ながらも毎日新たに発生しており、警戒を続ける必要があります。

GoToトラベルや、県内の「いまなら。キャンペーン」の実施による経済の活性化対策の一方で、感染拡大も懸念されます。感染リスクを避けた楽しい旅行をするために、観光庁より旅行者の視点でまとめられた「感染防止のための留意点」新しい旅のエチケットが作成されています。感染防止対策として注意していただきたい内容について、旅行の各場面(移動、食事、宿泊、観光施設、ショッピング)ごとに掲載されています。ご旅行の前にご確認ください。 <https://goto.jata-net.or.jp/info/2020091001.html>

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(田中小児科医院)

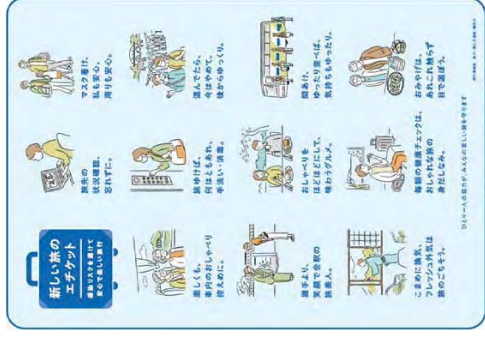
ヘルパンギーナが続いている。水痘は減少してきた。手足口病はまだ見受けられる。RS、インフルエンザは無い。胃腸炎は減少してきたが、サルモネラ腸炎があった。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

今週に入って外来数は増加。発熱、咽頭痛の例が増加。インフルエンザ様の例はなかった。ヘルパンギーナが流行との幼稚園はあるが確認した例はなかった。感染性腸炎も流行あり。血便を伴う例でキャンヒーロバクター腸炎が1例あった。その他の登録疾患は少ない状況。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

ヘルパンギーナは減少、アデノウイルス咽頭炎やアデノウイルス腸炎が増加してきた。軽症の呼吸器感染症も増加している。RSV、インフルエンザ、マイコプラズマの陽性例はまだない。COVID-19の成人例は散発しているが、小児例はない。



奈良県感染症情報

令和 2 年 第 41 週 (10 月 5 日 ~ 10 月 11 日)
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

病原体(ウイルス)検出情報(9月)

◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	1.32	(1.97) ↓	→	→	↓
2	ヘルパンギーナ	0.76	(0.56) ↓	→	↑	↓
3	突発性発しん	0.44	(0.29) →	→	→	↓
4	A群溶連菌咽頭炎	0.32	(0.32) →	↓	↑	↓
5	咽頭結膜熱	0.26	(0.18) ↑	→	↑	↑↑

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓**減少

◆ 県内概況 ◆

ヘルパンギーナの報告数は、第 40 週に引き続き増加しています。ヘルパンギーナの報告数は例年、夏にピークを迎えますが、今年は 9 月頃から増えはじめ、10 月からは例年よりも多い状況が続いています。

新型コロナウイルス感染症の報告数は、第 40 週から横ばいですが、継続して新規感染者が確認されています。引き続き、体調の変化に注意し、感染予防対策に努めましょう。

10 月 1 日から、異なる種類のワクチンを接種する際の接種間隔のルールが一部変更されました。麻しん風しん混合ワクチン・水痘ワクチン・BCG ワクチン、おたふくかぜワクチンなどの注射生ワクチン接種を接種する場合は 27 日以上あわせる必要がありますが、それ以外のワクチンの組み合わせについては、前の接種からの間隔にかかわらず、次のワクチンの接種を受けることができるようになりました。なお、同じ種類のワクチンの接種を複数回受ける場合は、ワクチンごとに決められた接種間隔を守りましょう。

◆ 病原体(ウイルス)検出情報(令和 2 年 9 月) ◆

* ウイルス分種同日での集計結果

検出病原体	北部			中部			南部			臨床診断名	検体採取日
	1	3	1	1	1	1	1	1	1		
パラインフルエンザ	1	3	1						気管支炎(1)、喘息性気管支炎(2)	1/11~2/27	
パラインフルエンザ	3	1							気管支肺炎(1)	1/11	
コクサッキーB群	5	1							感染性胃腸炎(1)*	2/8	
E.コリー	18	1							無菌性髄膜炎(1)	8/13	
A群ロタ	G9	1							感染性胃腸炎(1)*	2/8	
ライノ	A	1							ヘルパンギーナ疑い(1)	9/14	
ライノ	C	1	1						突発性発疹初期疑い(1)、心筋炎(1)	2/4、9/6	

※ 上記検出情報は、感染症発生動向調査のうち、定点把握対象の五類感染症について、病原体定点医療機関において採取された検体を、保健研究センターで検査した結果です。病原体定点医療機関とは、都道府県により患者定点医療機関の中から選定され、病原体の分離等の検査情報の収集にご協力いただいた医療機関です。現在、当該検査は、新型コロナウイルス対応のため遅延しております。



奈良県感染症情報

令和2年 第42週(10月12日～10月18日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報
- 9月報(月単位)報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	1.53	(1.32) →	→	→	→
2	ヘルパンギーナ	0.97	(0.76) ↑	→	↑↑	→
3	突発性発しん	0.47	(0.44) →	→	→	→
4	A群溶連菌咽頭炎	0.44	(0.32) ↑	↑	↓	↑↑
5	水痘	0.26	(0.15) ↑	↑	→	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆ 県内概況 ◆

県内で、今シーズン初となるノロウイルスによる感染性胃腸炎の集団発生が報告されました。ノロウイルス感染症の症状は嘔吐や下痢、発熱ですが、その多くは数日で自然に回復します。予防には手洗いが有効です。そのため、調理前やトイレの後など、流水と石鹸によるこまめな手洗いを行うようにしましょう。

ヘルパンギーナの報告数が、増加が続いています。ヘルパンギーナは例年、夏に流行する疾患で、2～4日の潜伏期の後、突然の高熱と咽頭痛を生じます。予防法は、感染者との密接な接触を避けることや手指消毒を行うことです。

新型コロナウイルス感染症の対応を見直す政令の改正が、10月9日に閣議決定されました。この改正により、10月14日から、疑似症患者の届け出対象が入院患者のみとなりました。また、10月24日から入院勧告・措置等についても見直されます。この改正に関する奈良県の対応については以下の URL を御参照ください(報道資料: <http://www.pref.nara.jp/secure/236849/1016houdou.pdf>)。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(田中小児科医院)

予防接種での受診以外の来院者は少ない。
風邪症状の発熱者は散見されるが、インフルエンザや登録疾患は見られない。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

短期の発熱例が増えてきたが、インフルエンザ様の疾患はまだない。

感染性腸炎は減少した。予防接種希望者が多いが他の感染症は少なかった。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

遅延する軽症呼吸器感染症が増加してきた。対症療法でほぼ軽快する。

マイコプラズマや COVID-19 は陰性。インフルエンザやノロウイルスもみられない。

出典: 厚生労働省HP
(https://www.nhlw.go.jp/ft/06/06-Seisakujaouhou-11130506-Shokuhanzenbur/0001_82906.pdf)



奈良県感染症情報

令和2年 第43週(10月19日～10月25日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 感染症に備える

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	1.24	(1.53) →	↑↑	↓	→
2	ヘルパンギーナ	0.88	(0.97) ↑	↓	↑	↑↑
3	突発性発しん	0.44	(0.47) →	↑	→	→
4	A群溶連菌咽頭炎	0.38	(0.44) →	↑	→	↑↑
5	水痘	0.29	(0.26) ↑	↑	→	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆ 県内概況 ◆

ヘルパンギーナの第43週(10月19日～25日)の報告数は、中和保健所管内東部地域で第42週に比べて特に増加しています。また、県内の定点医療機関からの報告数のうち1～2歳で半分以上を占めています。ここ数週間のヘルパンギーナの定点あたり報告数を見ると、近府県が横ばいなのに対し、奈良県は増加傾向にあります。

腸管出血性大腸菌感染症の報告が続いています。代表的な原因菌である O157 は感染力が強く、わずかな菌数の摂取で発症します。特に子どもや高齢者などは重症化しやすい、死に至ることもあります。菌に汚染された可能性のある飲食物の摂取を避け、また、人から人への感染を防ぐために調理前・食事前・トイレ後・おむつ交換後などの手洗いを徹底しましょう。家庭内感染予防には、お風呂に入る順番等も重要です。下痢などの症状がある時はシャワーだけに、回復後1週間は入浴順序を最後にしましょう。

感染症に備える

感染症は①病原体(感染源)②感染経路③感染する可能性のある人の3つの要因が揃うことで感染します。特に「感染経路の遮断」が感染拡大防止のために重要な対策となります。

空気感染(ウイルスや細菌(病原体)を含み空气中に浮遊する小さな粒子を吸い込むことによる感染経路)

例) 麻疹、結核、水痘(水ぼうそう) 等

【対策】 特殊な換気や、フィルタによる空気の清浄 等

飛沫感染(咳・くしゃみや、会話などで生じた病原体を含む大きな粒子が飛散し、他の人の鼻や口の粘膜あるいは結膜へ接触することによる感染経路)

例) 百日咳、インフルエンザ、風疹、流行性下痢炎(おたふくかぜ) 等

【対策】 マスクの着用、咳エチケット 等

接触感染(皮膚や粘膜、傷口の直接的な接触、あるいは咳やくしゃみを受けた手で触った物などを介して、間接的に接触することによる感染経路)

例) 咽頭結膜熱(プール熱)、インフルエンザ 等

【対策】 手洗い、手指消毒、 等

経口感染(糞口感染)病原体に汚染された食べ物を生または十分に加熱しない状態で食べた場合や、不十分な手洗い等により糞便中の病原体が手指を介して経口摂取することによる感染経路

例) ノロウイルス感染症、ロタウイルス感染症 等

【対策】 食品の十分な加熱、調理時・食事前・排泄物を処理した後の手洗い 等

※ワクチンがある感染症は、ワクチンを接種して感染や重症化を防止しましょう。

例) インフルエンザ、肺炎球菌、麻疹、風疹、ロタウイルス感染症 等





奈良県感染症情報

令和2年 第44週(10月26日～11月1日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	1.85	↑(1.24)	↑	↑	↑
2	ヘルパンギーナ	0.79	↑(0.88)	↑	→	↑
3	突発性発しん	0.53	↑(0.44)	↑	↑	→
4	A群溶連菌咽頭炎	0.26	↑(0.38)	↓	→	↑↑
5	水痘	0.24	↑(0.29)	↑	↓	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **やや増加** **↑↑急増** **↑増加** **↑増加** **→横ばい** **↓やや減少** **↓減少**
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増** **↑増加** **↑増加** **→横ばい** **↓やや減少** **↓減少**

◆県内概況◆

県内飲食店における新型コロナウイルス感染症クラスター事案の発生があります。クラスター発生要因として、閉鎖空間、マスクなしでのカラオケ等により、感染が拡大したと推定されます。他府県でも、日中にカラオケ、スナックやカラオケ喫茶などでカラオケを楽しむ「居カラ」に関連した新型コロナウイルス感染症クラスターが複数確認されています。居カラは、店舗の騒音対策で換気が難しく、密閉、密集、密接の3密が揃いやすく、重症化しやすい高齢者の利用が多いという特徴があります。より安全に居カラ店を利用するためには、体調不良時には利用しないこと、店内ではマスクを着用し、なるべく短時間の利用に留めること、感染拡大予防ガイドラインを遵守していない店舗の利用は、控えます。

10月29日、新型コロナウイルス感染症に関する現在の状況とこれまでに得られた科学的知見について、厚労省が新たな10の知識としてまとめました。新型コロナウイルス感染症の発生をさらに抑えるためには、1人ひとりが最新の知識を身につけて正しく対策を行っていただくことが何よりも重要です。ぜひご参照ください。「(10月時点)新型コロナウイルス感染症の「いま」についての10の知識」
(<https://www.mhlw.go.jp/content/000689773.pdf>)

♣小児科外来情報♣

北部地区(田中小児科医院)

熱性痙攣を起こしたヘルパンギーナと思える患児が続いていました。

流行とは言いえないが水痘がまだ続いています。

下痢症状が続く乳幼児が目につく。

インフルエンザ症状の患児はまだない。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

短期の発熱患者があるがインフルエンザはまだない。

下痢、嘔吐の感染性腸炎が小流行、熱はないが、隔離のうえ診察。

水痘、ヘルパンギーナなど他の登録感染症はなかった。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

ヘルパンギーナの流行は継続している。

呼吸器感染症は増加、症状は軽いも遷延傾向がある。

ノロウイルスの流行はまだない。

A型インフルエンザの発生があるも、ワクチン接種の効果か軽症に経過した。

厚生労働省 HP

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164706_00001.html



奈良県感染症情報

令和2年 第45週(11月2日～11月8日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(10月)

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	1.88	↑(1.85)	↑	→	↑
2	突発性発しん	0.53	↑(0.53)	↑	→	→
3	A群溶連菌咽頭炎	0.26	↑(0.26)	↓	→	↓
4	水痘	0.24	↑(0.24)	↑	↑	→
5	ヘルパンギーナ	0.21	↑(0.79)	↓	↓	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **やや増加** **↑↑急増** **↑増加** **↑増加** **→横ばい** **↓やや減少** **↓減少**
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増** **↑増加** **↑増加** **→横ばい** **↓やや減少** **↓減少**

◆県内概況◆

9月頃から増加傾向であったヘルパンギーナの定点報告数は、減少しています。新型コロナウイルス感染症の報告数は、11月に入ってから、増加傾向が続いており、クラスターの発生も見られます。

インフルエンザの定点報告数は例年に比べ、低い水準で推移しています。インフルエンザは例年12月～4月頃に流行し、1月末～3月上旬にピークを迎えます。ワクチン接種は発症、重症化予防に有効ですが、効果は接種2週間後から5ヶ月後程度です。接種を希望する方は、早めに接種をしましょう。

インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症の感染経路は、主に飛沫感染ですが、接触感染でも感染します。感染拡大を防ぐため、咳エチケットを心がけ、こまめな手洗いとともに集団発生のリスクとなる3密(密閉・密集・密接)の環境回避を行うようにしましょう。また、体調が悪いときは外出を控え、無理をして学校や職場等へ行かないようにしましょう。

◆病原体(ウイルス)検出情報(令和2年10月)◆

* ウイルス分離同日での集計結果

病原体(ウイルス)検出患者数

* 令和2年10月におけるウイルス分離同日での集計結果

検出病原体	北部	中部	南部	その他	臨床診断名	検体採取日
ライノ	A	1			インフルエンザ疑い(1)	2/28
ライノ	C	1			気管支炎(1)	3/2
単純ヘルペス	1	1			ヘルパンギーナ疑い(1)	9/14

感染症発生動向調査において、新型コロナウイルス対応のため、医療機関より提供いただいた検体の検査が遅延しております。



奈良県感染症情報

令和2年 第46週(11月9日～11月15日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報
- 10月報(月単位)報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)

順位	疾患名	奈良県		増減	南部
		定点当たり	(前週)		
1	感染性胃腸炎	1.65	(1.88)	→	↑
2	突発性発しん	0.29	(0.53)	→	→
3	A群溶連菌咽頭炎	0.18	(0.26)	→	→
4	水痘	0.15	(0.24)	→	→
5	ヘルパンギーナ	0.12	(0.21)	→	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや増加、**↓**減少

◆ 県内概況

定点把握感染症の報告数は少ない状況です。インフルエンザの報告数も、例年に比べ低値で推移しています。ワクチン接種を希望される場合は、早めに近くの医療機関にお問い合わせください。
 新型コロナウイルス感染症の報告数は東京、大阪などの都市部を中心に増加していますが、奈良県においても増加傾向にあります。第46週は院内感染疑い事例もあり、1週間あたり107人と過去最多の新規感染者が発表されました。これから寒くなりますが、機械換気による常時換気や、機械換気が設置されていない場合は、室温が下がらない範囲(室温 18℃以上)で常時少窓を開けましょう。また、適度な保湿(湿度 40%以上)も大切ですので、加湿器の使用や洗濯物の室内干しで加湿を行いましょう。引き続き、マスク着用、手指衛生、他人との距離の確保、3密を避けるといった感染対策を地道に継続することが流行を抑えることにつながります。

❖ 小児科外来情報

北部地区(田中小児科医院)

鼻汁、軽度の咳を見る乳幼児を見ることが多くなりました。ただし全体の受診者数は少ないままです。インフルエンザを検査すべき患児はいない。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

感染症の外来数はそう増加していない。
 咽頭発赤、短期発熱の感冒例が主。咳嗽例はあるがRS、hMP肺炎が疑われる例はない。
 下痢、軽い嘔気の感染性腸炎が小流行。
 インフルエンザ様疾患はなかった。Covid19を疑う例はなかった。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

咽頭痛を伴うウイルス性上気道感染症が増加。遷延する咳嗽鼻汁の乳幼児例も多い。
 covid-19は成人で散見。インフルエンザ、RSV感染症の流行はみられない。
 ノロウイルス胃腸炎もみられない。



奈良県感染症情報

令和2年 第47週(11月16日～11月22日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 会食でのコロナ対策

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)

順位	疾患名	奈良県		増減	南部
		定点当たり	(前週)		
1	感染性胃腸炎	2.18	(1.65)	↑	↑
2	突発性発しん	0.53	(0.29)	→	↑
3	A群溶連菌咽頭炎	0.47	(0.18)	↑	↓
4	咽頭結膜熱	0.32	(0.03)	↑	↑
5	水痘	0.29	(0.15)	↑	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや増加、**↓**減少

◆ 県内概況

定点把握感染症の報告数は少ない状況ですが、咽頭結膜熱やA群溶連菌咽頭炎の報告数が先週(11月9日～15日)よりも増加しています。
 新型コロナウイルス感染症は、全国的に感染者や重症者が増加しています。県内の第47週における新規感染者は145名でした。第3波(10月26日～11月22日までの分析結果)では、県外由来の1次感染を上回って県内の2次、3次感染が発生しています。会食による感染が全体の8割を占めており、注意が必要です。
 11月は薬剤耐性(AMR)対策推進月間です。AMRとは、抗薬薬が効きにくくなったり、効かなくなったりすることです。風邪やインフルエンザ、新型コロナウイルス感染症はウイルス感染症であり、抗薬薬は効きません。AMR対策のために、適切に抗薬薬を使用しましょう。

会食でのコロナ対策

新型コロナウイルス感染症対策分科会が政府に提言した、感染リスクが高まる「5つの場面」の中には「飲食を伴う懇親会等」「大人数や長時間におよぶ飲食」「マスクなしでの会話」等が挙げられています。年末に向け、忘年会など会食の機会が増えると思われていますが、会食時の感染リスクに注意が必要です。

感染リスクを下げながら会食を楽しむ工夫

- ◆ 飲酒をするのであれば
 - ① 少人数・短時間で
 - ② なるべく普段一緒にいる人と
 - ③ 深酒・はしご酒などはひかえ適度な酒量で
 - ◆ 箸やコップは使い回さず1人ひとり
 - ◆ 席の配置は斜め向かいに
 - ◆ 会話をする時はなるべくマスク着用
 - ◆ 換気が適切になされているなどの工夫をしている、ガイドラインを遵守したお店
 - ◆ 体調が悪い人は参加しない
- これらを意識して、静かなマスコ会食をこころがけましょう。





奈良県感染症情報

令和2年 第48週(11月23日～11月29日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	1.56	(2.18)	↗		↗
2	A群溶連菌咽頭炎	0.24	(0.47)	↗	↘	↗
2	突発性発しん	0.24	(0.53)	↘	↗	↗
4	ヘルパンギーナ	0.15	(0.12)	↗	↘	↗
5	咽頭結膜熱	0.09	(0.32)	↗	↘	↗

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **やや増加** **急増** **増加** **急増** **増加** (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆県内概況◆

定点把握感染症の報告数は少ない状況です。全国の季節性インフルエンザの発生状況は、昨シーズンの同時期と比較し、100分の1以下となっています。季節性インフルエンザは、発熱や咳を起し、新型コロナウイルス感染症の症状と非常に似ています。「筋肉痛があるからコロナではない」等自己判断せず、まずは身近な医療機関に相談してください。

48週において、県内新型コロナウイルス感染者が連日新たに20人前後の発生が続いており、事業所におけるクラスターや院内感染事案も散見されます。これから本格的な冬を迎え、さらなる増加が懸念されます。あらためて1次感染の予防と2次感染の防止に向け、「うつらない」うつつささない行動を徹底しましょう。また、感染リスクの高い場所の出入りを控え、風邪症状や体調が悪い場合は、無理して学校や職場等に行かないようにしましょう。

❁小児科外来情報❁

北部地区(田中小児科医院)

咳と鼻汁の者は若干増えたが、インフルエンザ迅速検査を実施した者はいない。RSも今シーズンは診ていない。ノロ胃腸炎も少ない。比較的高い年齢の突発性発疹を診る。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は増加していない。短期発熱、その後の微熱、といった例が多いが Covid19 検査を紹介した例はなかった。

咳嗽例はあるが例年のようにRS,hMP 肺炎を疑う例はなかった。感染性腸炎の流行はあるが嘔吐なくノロ様ではなく、乳児のロタもなかった。インフルエンザはまだない。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

アデノウイルス胃腸炎が増加。入院必要例もあり。ノロウイルス胃腸炎の流行はない。蔓延する呼吸器感染症は多くなってきたが、各種迅速での陽性例は少ない。インフルエンザは散発性で流行には至っていない。発熱者はCOVID-19 鑑別必要だが、無熱者より陽性がでている。

出典：厚生労働省HP



奈良県感染症情報

令和2年 第49週(11月30日～12月6日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

病原体(ウイルス)検出情報(11月)

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	1.56	(1.56)	↗	↗	↗
2	突発性発しん	0.59	(0.24)	↗	↗	↘
3	A群溶連菌咽頭炎	0.53	(0.24)	↗	↗	↗
4	咽頭結膜熱	0.41	(0.09)	↗	↗	↗
5	ヘルパンギーナ	0.09	(0.15)	↘	↘	↘

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **やや増加** **急増** **増加** **急増** **増加** (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆県内概況◆

定点把握感染症の報告数は少ない状況です。全国の季節性インフルエンザの報告数も、例年に比べ低値で推移しています。

12月1日は「世界エイズデー」です。エイズは、HIVに感染し免疫システムが破壊されて起こる病気の総称をいいます。早く感染に気づき、適切な治療を行えば、エイズの発症や症状を抑えられ、通常の日常生活を送ることができます。大切な人につづつことを防ぐためにも、早期検査を心がけましょう。県では、県内各保健所にてHIV検査や健康相談などを行っています。

新型コロナウイルス感染症については、県内の第49週における新規感染者は184名でした。大都市における感染者の増加とともに、県内では10月下旬から感染者の増加傾向がみられています。引き続き、感染リスクの高い場所の出入りを控え、手洗い、マスクの着用といった基本的な感染防止対策はもとより、室温を保ちながら常時換気をしたり、適度な加湿を行ったりするなど、感染予防に協力をお願いいたします。

＜ 県の対応・発熱等の相談について ＞

- 新型コロナウイルス感染症については、県のホームページに最新情報を掲載しています。
- 発熱等の症状のある方は、まず、身近な医療機関に電話相談してください。
- 身近な医療機関がない方は、「新型コロナウイルス・発熱患者受診相談窓口」に電話相談してください。
- 発熱等の症状がない場合でも、感染の不安のある方は、「新型コロナウイルス・発熱患者受診相談窓口」に電話相談してください。

★新型コロナウイルス・発熱患者受診相談窓口★

相談窓口	電話番号	FAX番号	対応時間
奈良県庁	0742-27-132	0742-27-8565	平日・土日祝24時間

◆病原体(ウイルス)検出情報(令和2年11月)◆

病原体(ウイルス)検出患者数

*ウイルス分離同日での集計結果

検出病原体	北部	中部	南部	その他		検体採取日
				B	I	
インフルエンザ		1			インフルエンザ(I)	3/2

感染症発生動向調査において、新型コロナウイルス対応のため医療機関より提供いただいた検体の検査が遅延しております。



奈良県感染症情報

令和2年 第50週(12月7日～12月13日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報
- 11月報(月単位)報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	1.85	(1.56) →	→	→	↗
2	A群溶連菌咽頭炎	0.38	(0.53) →	→	↗	→
3	咽頭結膜熱	0.26	(0.41) ↗	↗	↗	↗
4	突発性発しん	0.21	(0.59) ↓	↘	↘	↘
5	水痘	0.18	(0.03) →	↗	→	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↗**急増、**↖**急減、**↘**やや増加、**↙**やや減少、**↓**減少

◆ 県内概況 ◆

定点把握感染症の報告数は少ない状況が続いています。
 感染性胃腸炎は、ウイルス感染(ノロウイルス・ロタウイルス等)が原因であることの多い、嘔吐・下痢を主症状とする感染症です。今シーズンの報告数は例年よりも少ないですが、患者発生は12月の中旬にピークとなる傾向があるため、注意が必要です。特にトイレの前後、調理前、食事前には、流水と石けんを用いて手を洗いましょう。また、調理器具もしっかりと洗浄しましょう。
 新型コロナウイルス感染症について、県内の第50週における新規感染者は189名でした。12月11日に新型コロナウイルス感染症対策分科会から、「忘年会・新年会・成人式等及び帰省について」の提言がありました。忘年会・新年会では「感染リスクを下げながら会食を楽しむ工夫」をしましょう。帰省する際には、三密回避を含め基本的な感染防止策を徹底するとともに、大人数の会食を控えるなど、高齢者等への感染につながらないように注意しましょう。また、発熱等の症状がある場合は、宴会やイベントの参加、帰省を控えましょう。

❖ 小児科外来情報 ❖

北部地区(田中小児科医院)

予防接種と健診以外の来院者は極めて少ない。
 嘔吐が主体のため輸液をしたノロウイルス胃腸炎の保育園児がいた。
 発熱患児で迅速検査を必要と思われる感染症は診ていない。

IsA血管炎があり、腹痛発作があるため入院となった。

中部地区(岡本小児科クリニック)

短期の発熱、感冒症状程度の例が多くコロナを疑う例は小児科ではなかった。
 幼稚園・学校等でコロナ発生し念のためのPCR検査を済ませてから来院の例を散見するようになった。
 インフルエンザはまだない。

感染性腸炎も流行、軽症、短期、軽度の下痢程度。
 他の感染症は全く見られなかった。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

熱・咳・鼻汁の呼吸器感染症が増加、COVID-19、インフルエンザ等の鑑別を要するも一般感冒が大部分。
 高熱・咽頭痛のアデノウイルス感染症の流行は続いている。



奈良県感染症情報

令和2年 第51週(12月14日～12月20日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 年末年始のご用心(新型コロナウイルスについて)
- ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	0.94	(1.85) →	→	→	→
2	咽頭結膜熱	0.44	(0.26) ↗	↗	↗	↗
3	A群溶連菌咽頭炎	0.32	(0.38) →	→	↗	→
4	突発性発しん	0.24	(0.21) ↗	↗	→	→
5	水痘	0.09	(0.18) →	→	→	↗

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↗**急増、**↖**急減、**↘**やや増加、**↙**やや減少、**↓**減少

◆ 県内概況 ◆

定点把握感染症の報告数は、少ない状況が続いています。
 新型コロナウイルス感染症は、県内の第51週における新規感染者は161名と多い状態で推移しています。12月に入ってから、私立高等学校、飲食店、カラオケ教室等でのクラスター事案の発生がありました。現在、家庭内での感染が増加し、外から持ち込まれたウイルスに高齢者や持病のある方が感染すると重症化のリスクが高く、これらが広まると医療体制が一層逼迫します。今回の年末年始は「感染拡大防止」を徹底するため、特に高齢者や持病のある方々と感染リスクの高い三密となる場面をできる限り避け、体調が悪いときは、イベントや食事会の参加、帰省は控えてください。医療体制の逼迫を防止するための行動を1人1人が心がけましょう。

年末年始のご用心(新型コロナウイルスについて)

忘年会・新年会、初詣、帰省や成人式など、年末年始に人々の交流を通じて感染が拡大しないよう、三密や感染リスクが高まる「5つの場面」をできる限り避け、感染防止策の徹底をお願いします。

◎忘年会・新年会

なるべく普段から一緒にいる人と少人数で開催するようにしましょう。

◎初詣

混雑する時期を避けるようにしましょう。

◎成人式

式典の前夜や会場での飲食は控え、会場ではマスクの着用や手指の消毒を行いましょう。

◎帰省

帰省する前は余暇活動を控え、帰省したら家族で静かに過ごすようにしましょう。大人数での会食は控え、高齢者などへの感染につながらないように気をつけましょう。

感染リスクが高まる「5つの場面」

忘年会・新年会・成人式等および帰省についての分科会からの提言(内閣府HP)
https://coronaa.go.jp/proposal/pdf/bunkakai_20200121.pdf
 年末年始を安心して過ごしていただくための対策について(奈良県HP)
<http://www.pref.nara.jp/575100.htm>



奈良県感染症情報

令和2年 第53週(12月28日～1月3日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)

http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:07-44-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報 ※第52週(12月21日～12月27日)分

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	0.68	(1.18) ↓	↓		↗
2	A群溶連菌咽頭炎	0.12	(0.74) ↓	↓	↓	↓
3	咽頭結核熱	0.09	(0.44) ↓	↓	↓	↓
3	水痘	0.09	(0.09) →	↓	→	↗
3	突発性発しん	0.09	(0.32) ↓	↓	↓	↓

発生状況: **大流行** 流行 **やや流行** 少流行 (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓**減少

◆ 県内概況 ◆

第53週は年末年始で休診の医療機関が多く、定点把握感染症の報告数は減少しています。インフルエンザの報告もみられません。

新型コロナウイルス感染症は、県内の第52週(12月21日～27日)における新規感染者が227名、第53週(12月28日～1月3日)が226名と、第51週(12月14日～20日)に比べて大幅に増加しています。12月下旬は保育所や複数の病院などでクラスターが発生しました。また、入院患者数は1月5日現在で234名で、入院対応可能数370床の7割程度となっています。県では無症状態を含むすべての感染者を入院または宿泊療養により対応しています。宿泊療養者数は徐々に増加しており、12月30日から新たな宿泊施設を確保することで対応しています。新型コロナウイルスの感染から発症までの潜伏期間は多くが5～6日間と言われており、年末年始の影響は第1週(1月4日～10日)の感染者数の推移をみないと判断できませんが、今のところ県内で終息の兆しはみえず、今後も増加が予想されます。引き続き、「うつらない」「つぎつぎ」行動の徹底が重要です。

❖ 小児科外来情報 ❖

【北部地区(田中小児科医院)】

年末には川崎病の3歳児があった。
インフルエンザは無く、発熱患児の受診も少ない。
外来受診者は例年の50%程度です。

【南部地区(南奈良総合医療センター小児科)】

咽頭扁桃炎増多、扁桃白苔付着を伴い、迅速では溶連菌、アデノウイルス陽性例が多い。発熱遷延例ではEBウイルス陽性も散見されている。インフルエンザの流行はない。
発熱が無～1.2日、咳嗽や鼻汁も軽微な小学生よりCOVID-19陽性が多い。普通感冒との鑑別は困難。

出典:内閣官房 HP

になる話題



ダニ媒介感染症に気を付けましょう

第32週(8月3日～8月9日)に奈良県内でライム病の患者が報告されました。県内で感染したと推定される初めての症例です。ライム病は、マダニによって媒介される細菌感染症です。日本には命名されているものだけで47種のマダニが生息しており、ライム病を媒介するマダニは北海道ならびに、本州や四国、九州の山間部に生息します。近畿地方では、標高1500m以上を目安とする紀伊山地の一部にも生息していると考えられており、本県はその内に含まれています。

国内で発生している他のダニ媒介感染症には、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、つがが虫病、日本紅斑熱などがあり、県内で今年度は日本紅斑熱が1例報告されています。SFTSや日本紅斑熱はマダニによって媒介され、西日本を中心に発生しており、つがが虫病は北海道を除く全国で発生しています。

マダニは、野生動物が生息する環境や、民家の裏庭や裏山、畑などに生息します。ツツガムシ(ダニの一種)は野山や河川に生息します。ペットなどを介して家の中に持ち込まれることもあります。

SFTS: マダニに咬まれてから6日～2週間ほどで、発熱、倦怠感、消化器症状(食欲低下、嘔気、嘔吐、腹痛、下痢)などの症状が出現します。また頭痛、神経症状(意識障害、けいれん、昏睡)、リンパ節腫脹、出血症状(紫斑、下血)などの症状を引き起こすこともあります。

つがが虫病・日本紅斑熱: つがが虫病はダニの一種であるツツガムシに咬まれてから5～14日ほど、日本紅斑熱はマダニに咬まれてから2～8日ほどで高熱、発疹、刺し口(刺された部分が赤く腫れかさぶたになる)が現れます。治療が遅れると重症化しやすく、血管内凝固症候群(DIC)という血液の病気を起こすことがあります。

ライム病: マダニに咬まれてから数日～数週間(感染初期(stage I))で刺咬部を中心に環状紅斑又は均一性紅斑を呈することが多く、筋肉痛、関節痛、発熱、悪寒、全身倦怠感などのインフルエンザ様症状を伴うことが多くあります。全身性に拡散(播種期(stage II))すると、皮膚症状、神経症状、心疾患、眼症状、関節炎、筋肉炎など多彩な症状がみられ、数ヶ月ないし数年を経て(慢性期(stage III))重度の皮膚症状、関節炎などを示します。

ダニ媒介感染症が疑われる場合、流行地域への行動歴、曝露歴やダニの刺し口がないか確認することが重要です。
○患者発生状況(人)

	2014年		2015年		2016年		2017年		2018年		2019年	
	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県
SFTS	61	0	60	0	60	0	90	0	77	0	101	0
つがが虫病	241	1	422	0	505	0	447	0	455	0	404	0
日本紅斑熱	320	1	215	0	271	0	337	0	305	0	318	0
ライム病	17	0	9	0	8	0	19	0	13	0	17	0

○検査材料および検査できる場所

検査できる場所	検査材料		SFTS	つがが虫病	日本紅斑熱	ライム病
	血液、尿、血清	血液、血清				
保健研究センター	○(血清)	○(血液)	○	○	○	○
国立感染症研究所	○	○	○	○	○	○

(感染症情報センター)